

# 福祉に活用するマジック

## - マジックに対する介護老人福祉施設利用者の反応について -

河 合 勝

An Application of the Magic to the Social Welfare

Masaru Kawai

### 1. 研究の目的

地元の芸能愛好者らが介護老人福祉施設に出向いて、歌、踊り、楽器の演奏、手品などを披露するボランティア活動は各地でよく行われている。これらの芸能は、施設利用者にとって楽しみの一つである。

今回、私と学生はその中から「マジック」と「大正琴」を取り上げ、この芸能を施設利用者 に披露する活動を4回実施した。この目的は、利用者にマジックと大正琴の演奏を楽しんでいただくとともに、皆さんがどのようなマジックを喜んでくれるのか、あるいはどのような表現の仕方がよいのかを探ろうとするものである。すなわちマジックを福祉の中で活用するには、どのような内容をどのような方法で行えばより効果的かを、実演と観察、ビデオ撮影、アンケート調査などを基にして知ろうとするものである。

このような福祉に活用するマジックの研究は、全国的にみてもユニークなものであり、この研究で得られた成果は、マジックに限らずほかの福祉活動分野においても応用できるものである。

### 2. 研究の方法

マジックの公演を行った日時と会場と観客数は次のとおりである。

- ①平成12年12月13日(木) 午前10時～午前11時  
介護老人福祉施設「サンライフ江南」(愛知県江南市) 観客数 約50人
- ②平成12年12月13日(木) 午後2時～午後3時  
介護老人保健施設「フラワーコート江南」(愛知県江南市) 観客数 約100人
- ③平成12年12月16日(木) 午前10時～午前11時  
介護老人保健施設「ピエタ」(愛知県一宮市) 観客数 約60人

④平成12年12月16日(木)午後2時～午後3時

介護老人保健施設「ピエタ」(愛知県一宮市)

観客数 約60人

出演者、スタッフの役割分担は次のとおりである。

- ・マジックの出演 愛知江南短期大学社会福祉学科 学生11名。同学教員 河合 勝
- ・大正琴の演奏 愛知江南短期大学社会福祉学科 学生1名。
- ・音響係、ビデオ記録、写真記録 愛知江南短期大学社会福祉学科 学生4名
- ・ナレーション 河合 勝

マジックの種目については、次のような観点から選んだ。

- ①出現、消失、変化など現象が分かりやすくはっきりしているもの。
- ②色がカラフルで大きめの用具のもの。
- ③動物のぬいぐるみを使うマジック。
- ④紙吹雪、紙テープ、たれ幕を使った華やかなマジック。
- ⑤花、カラーシルクを使った美しいマジック。
- ⑥コイン、紙幣を使うマジック。
- ⑦お話をしながら実演するトーク・マジック。

実演したマジックの演目と内容は次のとおりである。

プログラム	現 象
①スリープフラワー	スカーフから花束が出現する。
②ステッキ花	1本のステッキが花束に変化する。
③寿ハンカチ	赤と白のハンカチを混ぜると「寿」と書かれたハンカチに変化する。
④スーパーチューブ	赤、黄、緑、ピンクの4枚のハンカチがつながって1枚の大きなスカーフに変化する。
⑤ドリームフラワー	赤い花を筒に入れるたびに黄色、青色と変化。小さい花束が、大きな花束に変わって出現。
⑥2本の筒	2本のカラの筒から万国旗、ぬいぐるみなどが出現する。
⑦ハトベース	白いハンカチが一瞬にしてウサギのぬいぐるみに変わる。
⑧ローラーボックス	ウサギのぬいぐるみを箱に入れるとペラペラのウサギに変化する。
⑨チェンジングバッグ	ペラペラのウサギを袋に入れると元どりのウサギのぬいぐるみになる。
⑩ペーパーハット	赤と緑の紙を破ると、カラフルな帽子になる。
⑪ダブパン	ナベに数枚のハンカチを入れて蓋をし、開けると、キラキラした花

- ボールになって出現。
- ⑫宝箱 からの箱から時計、紙テープ、ボールなどがたくさん出現。
  - ⑬ビリヤードボール 指間のピンポン玉が増えたり減ったりする。
  - ⑭手の中のハンカチ からの手からハンカチが出現。そのハンカチが千円札に変わる。
  - ⑮シャンペンボトル スカーフの中からシャンペンボトルが出現。そのシャンペンボトルが花ボールに変化。
  - ⑯紙幣拡大器 1万円札をローラーに通すたびに、紙幣がどんどん大きくなる。
  - ⑰小さくなるトランプ 大きなトランプがだんだん小さくなり、最後には消えてしまう。
  - ⑱欲ばり者の夢 手で空中をつかむたびに500円硬貨が出現。
  - ⑲ミルクの消失 筒の中にいれたミルクが消えて、たくさんの紙吹雪が出現。
  - ⑳タンバリン からの小太鼓からたくさんの紙テープが出現。

以上のうち、①～⑫を11名の学生が、⑬～⑳を教員の河合が演じた。演技中はバックミュージックを流した。

なお、マジックショーの初めに大正琴で「こんぴらふねふね」を、終わりに「荒城の月」を演奏した。



#### 演技のナレーションについて

観客が高齢でしかも痴呆の方が多ということで、今回は観客(利用者)の理解のために、演技の最中に言葉による説明を加えた。これは、本来演技者自身が演技をしながら行うものであるが、演技とナレーションの両方を同時に行うことは難しいため、ナレーションについては教員の河合が担当した。

### 写真撮影とビデオ撮影について

公演中に演技の写真撮影とビデオ撮影を行った。これは、活動を記録として残すとともに、後日、会場の雰囲気や利用者の反応を知ることができるとするためである。ただし、プライバシーの関係上利用者の背面から撮影した。

### 施設職員へのアンケート調査

実演終了後に、マジックショーを鑑賞された施設職員の方に次のようなアンケートをお願いした。

### マジックショーのアンケート調査

無記名です。（男・女）

マジックショーをご覧になって、あなたはどのように思われましたか。

1～8についてお答えください。数字は○で囲んでください。

1. (利用者の方にとって)マジックショーは

- ①たいへんよかった ②よかった ③普通 ④あまりよくない ⑤悪い

《その理由》

2. 利用者の皆さんは、マジックの不思議さ、楽しさを理解されていたでしょうか。

3. 利用者の方がマジックショーを見ているとき、普段と異なる点がありましたでしょうか。

4. (利用者にとって)どんなマジックが良いと思われませんか。

5. マジックショーに解説のナレーションを入れましたが、これについてはいかがでしょうか。

(利用者の方にとって)

- ①入れた方がよい ②入れない方がよい ③どちらでもよい

①か②に○をつけた方 《その理由》

6. 全体を通じて「こんな点が良かった」というところがありましたら、お書きください。

7. 「こんなふうにするともっと良くなる」ということがありましたらお書きください。

8. 今回のマジックショーのあなたの感想をお聞かせください。

### 3. アンケート調査の結果

アンケートは20人の施設職員(男性4名、女性16名)の方から回答があった。同じ内容の回答が複数ある場合は、その人数を( )内に記した。

#### 1. (利用者の方にとって)マジックショーは

①たいへんよかった	10名
②よかった	8名
③普通	1名
④あまりよくない	1名
⑤悪い	0名

#### 《その理由》

- ・利用者の皆さんがマジックを見て喜んでいた。(3名)
- ・いつもとは違った時間を過ごし、喜んでいただけたと思う。(2名)
- ・先生も学生さんも一生懸命頑張っていたところが良かったと思います。(2名)
- ・演技者の動きが小さくて、後ろの席の人は分かりにくかったと思う。(2名)
- ・珍しいことばかりだった。
- ・若い人達のできばきした動きが見られて良かった。
- ・普段じっとしていることができない方も移動することなく、話しもせずに見入っていた。
- ・ごく少数の入所者の方はショーを理解できなかったが、多くの方は喜んでいました。
- ・利用者から「びっくりした」、「おもしろかった」という声が聞かれた。
- ・手品は「次はどうなるんだろう」と興味を引くのでお年寄りも熱心に見ていた。
- ・無記入(5名)

#### 2. 利用者の皆さんは、マジックの不思議さ、楽しさを理解されていたでしょうか。

- ・すべての方が理解することは難しいと思われます。しかし、痴呆の方でも花が出て来たり、大きなものが出てくると驚いていたように思いました。(4名)
- ・マジックの楽しさは理解できていたように思います。(3名)
- ・理解できない人もいましたが、マジックショーに出てくる用具を見て「きれいだねえ」と喜んでいたり人もいました。(2名)
- ・ごく少数の入所者は理解されていたと思われます。ミルクが紙吹雪に変わったところは、ほとんどの入所者がどうしてあんなふうになるのか不思議で仕方ないといった様子でした。(2名)
- ・マジックの不思議さを理解されていたかどうかは分かりません。多くのお年寄りはとても喜んで見ていました。また、痴呆の方は見たことをすぐに忘れてしまいますが、とても興

味深く見ておられたので、その場だけは理解されていたと思う。(2名)

- ・白内障や目の見えない方のためにも細かく説明して、もっとゆっくりしたペースで音楽も大きくされると、利用者が眠ってしまわずに楽しめたのではないかと思った。(2名)
- ・通所者の方はテレビでマジックを見る機会があるけれども、今回は目の前で見ることできたので楽しそうだった。
- ・見ることの楽しさは感じました。
- ・前の席の方は演技が見えるけれども、後ろの席の方は見えないから何とも言えない。
- ・分からない(1名)
- ・無記入(1名)

### 3. 利用者の方がマジックショーを見ているとき、普段と異なる点がありましたでしょうか。

- ・今までの行事と違って「どきどき感」や「見る楽しみ」が味わえたり、テレビではなく直接会場でマジックを鑑賞できたことがとても良いと思った。
- ・感動して表情が明るく、笑い声や拍手をする動きがいつもより大きかった。大正琴の演奏に涙をみせる方もいた。
- ・普段、傾眠がちな方がしっかり目を開けて見ていた。また、利用者の表情が明るく、ワクワクした感じが受け取れた。
- ・目が生き生きしている方もいた。鑑賞した入所者が自分の部屋に戻ってから他の人に話をしていた。
- ・レクリエーションの時間は居眠りしている痴呆の方も「上手だねえ」と笑顔を見せていた。職員の説明が必要な痴呆の方も理解を示されていた。話し声や移動することもなかった。
- ・瞬きをせず、体もじっとしたまま真剣に見ていた。
- ・利用者の方がじっとステージを見つめ、とても楽しまれていた。
- ・痴呆の方で身を乗り出して見ている人もいた。
- ・楽しく笑っていた。
- ・普段笑わない痴呆の方もとても興味深く見ていた。
- ・始まる前から楽しみにしていた。
- ・痴呆の方は興味深そうに見ておられ、普段以上に笑っていた。

### 4. (利用者にとって)どんなマジックが良いと思われますか。 複数回答

- ・表情や動作が大きいこと(6名)
- ・現象が単純で分かりやすいもの(5名)
- ・大きいものが出てくるもの(3名)
- ・驚きの大きい手品(2名)
- ・品物が出現するマジック(2名)

- ・お話を入れたマジック( 2名)
- ・生き物(例：ハト)が出てくるマジック( 2名)
- ・仕掛けの大きいもの( 1名)
- ・大きな声でトークすること( 1名)
- ・利用者も一緒に参加できるもの( 2名)
- ・タネ明かしもしてほしい( 2名)
- ・一万円札がだんだん大きくなるマジック( 2名)
- ・わざと失敗したように見せる手品( 1名)
- ・音楽に合わせて、動きの良いもの( 1名)
- ・花が出てくるマジック( 1名)
- ・ミルクが花吹雪に変わるマジック( 1名)
- ・ボールの色が変わるマジック( 1名)

**5. マジックショーに解説のナレーションを入れましたが、これについては、いかがでしょうか。(入所の方にとって)**

- |           |     |
|-----------|-----|
| ①入れた方がよい  | 15名 |
| ②入れない方がよい | 0名  |
| ③どちらでもよい  | 4名  |
| 無記入       | 1名  |

①か②に○をつけた方 《その理由》

- ・目の不自由な方には大変よかった。( 4名)
- ・ナレーションを入れた方が、今何をおこなっているかが理解されやすい。( 2名)
- ・マジックをする人自身が話をしたほうが、顔や体に表情が出てきて、より理解されやすいと思う。( 2名)
- ・幾つかのマジックを続けて行う場合は、年配者は判断が遅いから、分かりやすい言葉で説明した方が興味を持っていただけと思う。
- ・雰囲気作りに役立っていると思います。
- ・「めりはり」がついてよいと思った。
- ・客席の後方の方は見にくいのでナレーションを入れた方がよい。
- ・視力だけでなく、聴力も使うことで刺激にもなる。
- ・「次はどうなるかな？」と思わせるような解説だと脳の刺激にもなる。

**6. 全体を通じて「こんな点が良かった」というところがありましたら、お書きください。**

- ・いろいろな種類のマジックがあって、変化もあってよかったと思います。( 5名)
- ・ほとんどが大きめのマジックで、分かりやすくよかったと思います。( 3名)

- ・真面目に取り組んでいる姿勢が感じられてよかった。(2名)
- ・とてもおもしろかったです。(2名)
- ・全部よかった。
- ・ひとつ一つのマジックに解説を取り入れてもらえるともっとよかった。
- ・準備の間、入所者を退屈させないように大正琴の演奏を入れたのはよかったと思う。
- ・若い方がくると入所者も良い刺激を受けるので、来てくださるとうれしい。
- ・「いつもとは違ったものを見た」という感想は持っていただけだと思います。
- ・マジックショーは、施設ではやっていないのでとても新鮮な感じがしました。
- ・長時間だらだらしないで終了したこと。
- ・学生の皆さんがとても楽しそうにやっていたのでお年寄りの方も楽しく見れたと思う。演じる人が楽しそうだと見ている人も楽しくなる。
- ・出演者が若い子ばかりだったので、お年寄りには孫みたいで受けていた。
- ・未記入5名

#### 7. 「こんな風にするともっと良くなる」ということがありましたらお書きください。

- ・入所者に手伝ってもらおうマジックを取り入れてほしい。(3名)(例：出て来た万国旗を持ってもらう)
- ・わざと失敗してみせる演技もおもしろい。(2名)
- ・大きいものが出てくる手品は好評です。
- ・大正琴演奏も手品の合間の息抜きという感じで良かった。最初から最後まで手品ではきくと皆さん飽きてしまうと思います。
- ・マジックショーの間、マジックをしていない方が入所者の横につき、声をかけたり手に触れたり会話をするなどのコミュニケーションがあると良かったと思います。
- ・笑顔で、明るい声で話されるとよい。
- ・ゆっくりしたテンポで演じた方がよい。
- ・リズムに乗って演じた方がよい。
- ・見る人に2～3回ぐらい説明をいれてほしかった。
- ・最後にちょっとだけでもタネあかしをしてもらいたかった。
- ・お年寄りに受けるジョークやコミックマジックを研究してください。
- ・一人一人の締めがなく、だらだらしているように感じました。
- ・オーバーアクションで演じること。動きが少ない。
- ・未記入4名

#### 8. マジックショーの感想をお聞かせください。 複数回答

- ・また来てください。(9名)



- ・利用者の皆さんがとても楽しまれていました。(6名)
- ・ありがとうございました。(5名)
- ・学生さんの表情がかたい。(3名)
- ・大変良かったと思います。(2名)
- ・私たち職員も楽しませていただきました。(2名)
- ・学生さんは一生懸命練習されたと思います。
- ・入所者の方の一面が見られてとても良かったと思います。段取りも良く入所者を退屈させないで、楽しんでいただける工夫がされていたと思います。
- ・たくさんの出し物で大変良かった。
- ・とても楽しいマジックでした。先生のマジックを最後にもってきたのはとても良かったのではないのでしょうか。職員も見入ってしまうくらい良かったです。
- ・学生さんのマジックには初々しさが感じられて良かったですし、先生のマジックには利用者の皆さんだけでなく、職員も圧倒されました。
- ・次回はコミカルなマジックを期待しています。

#### 4. 学生による観察記録

マジックショーと大正琴の演奏中に、利用者がどのような反応をしたか、また、マジックの内容と演技、演出上の問題点、会場づくりなどについて、気づいた点を挙げてもらった。

これらの学生による観察記録は、「会場」、「演出」、「利用者の反応」、「種目で気づいたこと」の4項目に分類してまとめた。

##### 会場について

- ・ステージにスポットライト(照明)を当てれば、観客(利用者)がもっと見やすかった。
- ・ステージ台が狭かったり、高すぎたり、袖がない会場は、演技がしにくかった。
- ・ステージが広くて袖もあり、音響などの設備が整っているところはやりやすかった。

##### 演技、演出について

- ・マジックの演技中、笑顔になることができなかった。
- ・一番最初の公演は、段取りが悪く失敗した。
- ・開演前に、既に席について待っている利用者の方を退屈させない工夫が必要であった。
- ・ステージ上に用具を出し入れするとき、観客を退屈させないような工夫が必要だ。
- ・出演回数を重ねるごとに柔らかい表情で演技が出来るようになった。
- ・学生全員がスムーズに演技をしていた。
- ・演技にナレーションをつけたので、利用者の方には理解しやすくなったと思う。
- ・利用者と一緒にやって行うマジックもやればよかった。

- ・ 学生が、利用者と同じ目線で楽しんでいる姿が良かった。

#### 利用者の反応について

- ・ マジックショーの演技中に、次の出演者が舞台の袖で準備をしていると、そちらに気を取られて集中できない利用者もいた。 目隠し用の衝立を準備するとよい。
- ・ 始まる前の待ち時間が長かったせいか、つまらない表情をしていた利用者が、ショーが始まると真剣な顔になった。
- ・ 会場が広く、人数も大勢だったので、客席の後ろの方の利用者はステージの演技がよく見えなかったようだ。また寝ている人もいた。
- ・ 興味津々の顔でマジックショーを見ている人もいた。
- ・ 曲がっている利用者の背中が、マジックショーが進むにつれて伸びた。
- ・ 音楽(マジックのBGM)によってリズムを取っている人がいた。
- ・ 縫いぐるみや人形などが出てくると、利用者の顔の表情がやさしくなる。
- ・ マジックの種目ごとに拍手があり、驚く姿が見られた。
- ・ 大正琴の演奏では、利用者が曲に合わせて歌ったり、手拍子をしていた。

#### 演技種目について

- ・ 「ドリームフラワーとフラワーチューブ」が一番大きい反応があった。ほかに「ハトベース」「ダブパン」など、カラフルなものや見た目に大きいもの、変化のはっきりしているものが反応が良かった。
- ・ 「消失現象」のマジックより「出現現象」のマジックの方が反応が良かった。
- ・ 「紙幣拡大器」のマジックはみんなが喜んでた。
- ・ かわいい縫いぐるみが出てくると反応が大きくなる。ハンカチよりも縫いぐるみを出した時のほうが反応が大きい。
- ・ 当日が誕生日会ということもあって、「寿のハンカチ」の出現は反応が良かった。
- ・ ハンカチから花が出現したときは、皆さん「すごい」という感じで見ていた。



## 5. 考 察

施設職員の評価では「たいへんよかった」と「よかった」を合わせると18人(90%)となり、その理由として、「利用者の皆さんがマジックを見て喜んでいたので」という回答が8人あった。

マジックの不思議さ、楽しさの理解度については、「利用者の皆さんは、楽しさを理解されていたと思います」という回答が多くあった。しかし、眠っていたり、無表情のままであったり、とても理解が難しいと思われる人もいた。

利用者の普段との違いについては、「マジックを見ている利用者の表情が明るかった」、「笑い声や拍手する動きがいつもより大きかった」、「目が生き生きしていた」、「言葉数が増えた」、「真剣な顔でじっと演技を見つめていた」など、幾つかの反応がみられた。

演技中のナレーションについては、ほとんどの人が行った方が良いと答え、「解説により理解がより深まる」という回答が幾つかあった。今回は教員がナレーションを行ったが、演技をする人自身がお話したほうが良いという意見もあった。

良かった点については、「施設ではあまり見られないマジックをいろいろ見せてもらって、とても新鮮だった」、「マジックと大正琴の組み合わせが良かった」などがあげられる。

今後の課題については、「利用者も一緒にやれる場面があるとよかった」が幾つかあり、「出演していない人が入所者のところに来て、声をかけたり、手を触れたりしてコミュニケーションをとってもらおうとよい」、「学生さんの笑顔がもっと欲しかった」など、厳しい注文もあった。

今回の研究を通して特に明らかになった点をあげると次のとおりである。

- ①マジックは「種目の選択と演技方」によって、利用者の心を楽しませることが可能である。  
(内容と演出の工夫)
- ②利用者の方も一緒に参加できるマジックをプログラムに入れたり、参加できる方法を工夫するとよい。(利用者の参加)
- ③利用者が子どもの頃に口ずさんだ歌は、自然に歌われる。(子どもの頃の体験)
- ④音響、照明、音楽、舞台、飾り付けなどの会場づくりは効果をあげるうえで大切である。  
(会場の環境整備)
- ⑤出演者の笑顔が利用者をより楽しませる。(笑顔や雰囲気との連鎖反応)
- ⑥利用者の気を引くもの。それはカラフルなもの、大きいもの、派手なもの、ゆっくりしたペースでの見せ方。(利用者の心身を考慮した表現の方法)
- ⑦解説のナレーションは効果的である。(目、耳など利用者の五感を刺激する表現方法)
- ⑧動物のぬいぐるみの活用。(生き物への愛着)

今回、3つの福祉施設で4回のマジックショーと大正琴の演奏を披露した。ご覧になった方は合計約270名ほどであるが、マジックショーと大正琴演奏が終わり、私たちがステージに並んで「ありがとうございました」と挨拶をしているときに、目から涙を流している人が何人かいた。楽しみや音楽は人の心を癒す不思議な力があることを実感した。

私は、マジックによる社会教育活動を長年続けております。幼児期、学童期の子どもたちに披露する方法は、15年にわたる「教育・保育に生かすマジックの研究」の調査研究によって分かってきましたが、「特別養護老人ホーム」でのマジックの見せ方がどうしても分かりませんでした。マジックを見て楽しむには、不思議さの理解が前提となるわけですが、私はそのことさえも分からずに利用者の前で演じてきました。今回の調査によって、痴呆の方に楽しんでいただくには、マジックに説明を入れて演じること、利用者の人に手伝ってもらうこと、大変ゆっくりと演じることなど、私がかって覚えだ“マジックは音楽に乗ってスピーディーに演じる”という方法と異なる演じ方が良いことが分かりました。これは私にとって大きな発見でした。

この調査のあと、三重県の介護老人保健施設でマジックを演じる機会があり、この調査結果を念頭に入れて演じたところ、利用者の方々に大変喜んでいただき、研究の成果を生かすことができました。

#### 《謝辞》

今回の調査にあたり、愛知江南短期大学社会福祉学科河合ゼミ学生(16名)には、マジックの実演、用具の運搬、写真撮影、ビデオ撮影、資料の整理などでお手伝いをしていただきました。ありがとうございました。

〒483 8086 愛知県江南市  
高屋町大松原172番地  
愛知江南短期大学  
社会福祉学科